

令和3年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立図書館 (千代田図書館、日比谷図書文化館、四番町図書館、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館)	所在地	【千代田】千代田区九段南1-2-1 【日比谷】千代田区日比谷公園1-4 【四番町】千代田区三番町14-7 【昌平まちかど】千代田区外神田3-4-7 【神田まちかど】千代田区神田司町2-16
-----	--	-----	--

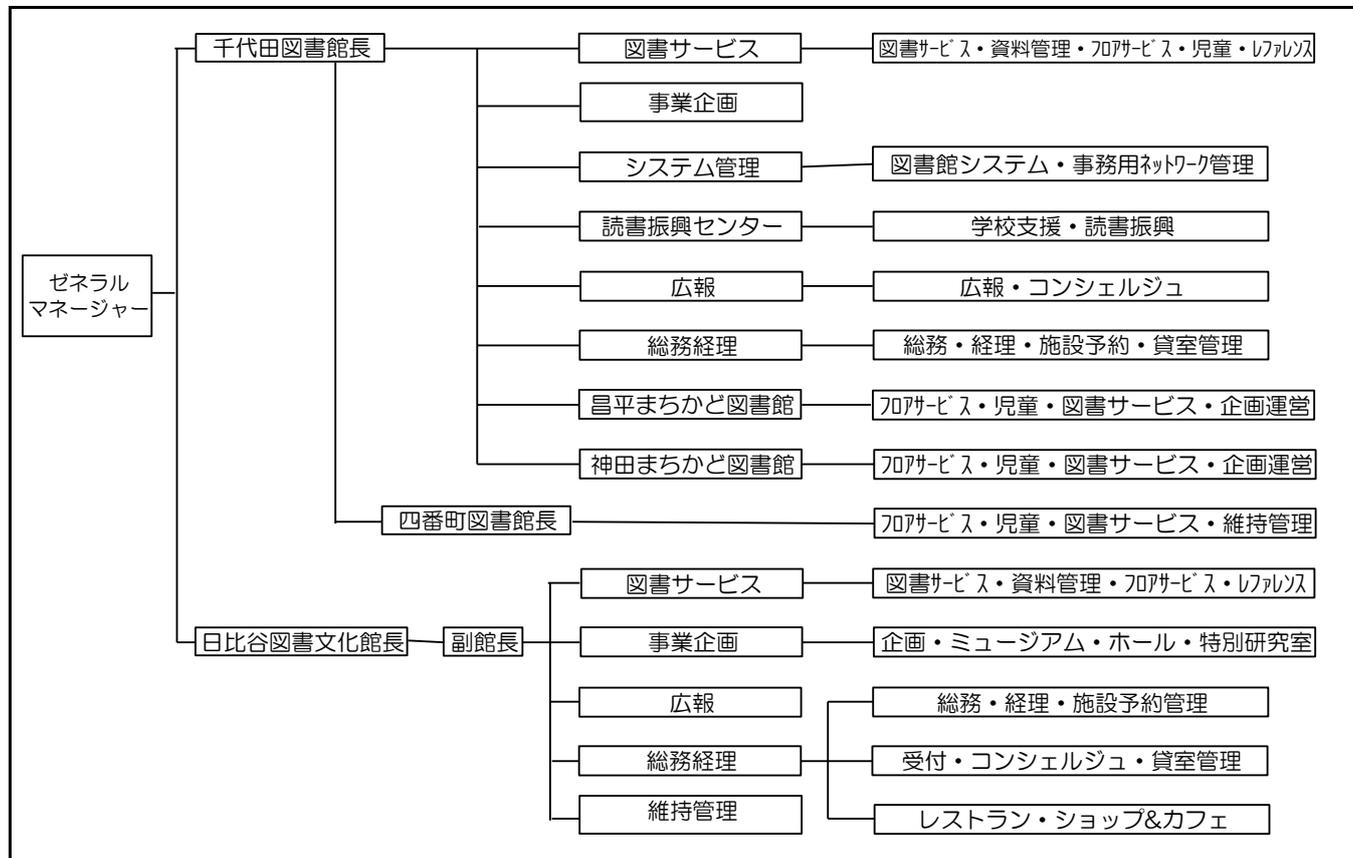
1 指定管理者の概要

名称	千代田ルネッサンスグループ	代表者	(株)小学館集英社プロダクション 代表取締役 都築 伸一郎 [構成企業] (株)ヴィアックス 代表取締役 小川 巧次 (株)図書館流通センター 代表取締役 細川 博史 サトリ・パブリティサービス(株) 代表取締役 間野 文祥 (株)シェアード・ビジョン 代表取締役 菅谷 彰 大星ビル管理(株) 代表取締役 寺島 剛紀
所在地	千代田区神田神保町2-30		
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	報告期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区立図書館の伝統と新しい行政に取り組む千代田区の特徴を生かし、文化情報資源の総合センターとしての役割を担い、基本的な図書館サービスの拡充や区民の生涯学習に資する。
管理業務の内容	(1) 図書館の利用に関する業務 (2) 図書館の事業の実施に関する業務 (3) その他、館の運営に関し必要と認める業務

3 管理体制の状況



4 事業実績等

(1) 来館者数

	千代田図書館	日比谷図書文化館	四番町図書館	昌平まちかど図書館	神田まちかど図書館
令和3年度	212,741人	286,050人	116,174人	46,535人	69,058人
令和2年度	204,121人	249,202人	115,533人	45,095人	65,307人
令和元年度	567,791人	702,565人	209,955人	88,896人	154,066人

(2) 図書館業務（令和3年度）

施設名	登録者数	蔵書数	貸出数（団体貸出を含む）	レファレンス受付件数	データベース利用件数
千代田図書館	17,954人	214,437点	212,616点	4,721件	3,673件
日比谷図書文化館	16,526人	227,354点	115,448点	1,554件	1,466件
四番町図書館	5,826人	91,262点	194,711点	650件	0件
昌平まちかど図書館	2,090人	29,670点	53,264点	-	-
神田まちかど図書館	3,488人	28,696点	102,217点	-	-

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料（図書館事業運営）	797,074,000円	人件費	530,291,727円
指定管理料（学校図書館等司書派遣）	60,627,000円	資料費	83,620,029円
研修室、会議室、ホール使用料	13,209,493円	システム運営費	2,399,608円
レストラン・ショップ&カフェ販売料等	32,407,771円	広報費	14,934,467円
日比谷カレッジ受講料	2,098,710円	一般運営費	46,333,684円
特別研究席利用料・日比谷ラボラトリー売上	785,700円	維持管理費	149,831,730円
特別展示室入場料	1,665,000円	一般管理費	20,370,370円
コピーサービス利用料等	1,926,210円	事業費	123,213,402円
損失費用補填額	60,713,537円	合計（②）	970,995,017円
合計（①）	970,507,421円		
収支差額（①-②）	-487,596円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>令和3年度も、新型コロナウイルス感染症による社会情勢に左右される結果となった。</p> <p>コロナ禍での運営は、政府や都の方針を背景とした区の方針に基づき、その都度利用者への告知、使用できる座席数の変更、アクリル板設置、新たな動線の確保、検温・消毒のお願いと体制づくり、掲示物の変更など多くの作業が必要とされたが、所管課の的確な指示と情報共有により、令和3年度も無事に運営できたと認識している。</p> <p>こうした運営状況の中で、入館者数、新規登録者数、資料貸出数といった基本的な数値は、すべて令和2年度を上回る結果となった。広報や情報の発信、企画事業等に関しても、目標値をおおむね達成できたといえる。まだ令和元年度の数値には遠いものの、所管課と情報共有を密にしながら、平常時レベルへと移行する準備を整えている。</p> <p>また、コロナ禍により高まった電子図書館へのニーズは、令和2年度から継続して高まっており、対面不要の郵送貸出件数も増加した。</p> <p>引き続き電子書籍の蔵書拡大を行い、出版の街である千代田区の特性を活かして、出版社や取次との連携を深め、最新の情報を入手するとともに、電子書籍の利点を活かした活用や、普及に繋がる活動を継続する。</p>	<p>資料費及び事業費のうち特別展示事業費の予算超過分は区からの損失補填の対象とならないため、収支差額はマイナスとなった。</p> <p>【収入】</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、57日間の臨時休館、イベントの中止、貸施設の夜間枠の中止を含む時間短縮や閲覧席数の削減（5割～7割）などを行ったが、予算に対する売上が令和2年度には2～3割程度に落ち込んだことに対し、令和3年度は貸室は4割強、レストラン・ショップ&カフェは4割弱、日比谷カレッジ等の講座は4割弱まで売り上げを回復させることができた。</p> <p>令和3年度も、休館や時短営業等の補填として、区からの損失費用補填を受けた。</p> <p>【支出】</p> <p>一般運営費は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施したため、予算比2割近く増加した。</p> <p>資料費では、四番町図書館と、両まちかど図書館の資料の新規購入や汚破損等による買換えを優先して行った。また、コロナ禍でWeb図書館の利用件数が増えたため、デジタルコンテンツの充実を図った。日比谷図書文化館では、データベースの更新と資料の買換えを重点的に行った。</p> <p>事業費は、売上減に伴う原価の減少により、予算比1割強の削減となった。</p>

7 区による評価・業務改善要求

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で従来のサービス提供が困難な状況であったが、入館者数などの基本的な数値が2年度を上回る結果となったことは評価できる。また、コロナ禍ということもあり、利用者からのご意見、苦情等に対して難しい対応が求められる中、しっかりとした対応がなされている。

今後は、図書館5館及び運営企業間の更なる連携のため、図書館幹部会の場を活用して情報共有を図るなど、一体的な運営体制の強化を要望する。

8 今後の指定管理に区が期待すること

コロナ禍以前の水準まで回復させるには時間がかかるかもしれないが、厳しい状況の中でも講座やイベント、特別展のより一層のアピールに努めるなど、来館者数を増やす努力をお願いしたい。

また、図書館サービスの向上はもとより、施設管理においても、設備保守点検による不具合の早期発見や計画的な修繕の実施など、適切な利用環境の整備に努めていただきたい。